

## 「安全安心で快適な走行を支援する情報提供」

年度末となりますが、平成 24 年度第 2 回の DRM セミナーを開催いたします。

安全安心で快適な走行を支援する情報提供を目指し、阪神高速道路をフィールドにした道路情報提供実験「プロジェクト Z NAVI de HANSHIN」が始まろうとしています。情報提供には道路の区間 ID 方式が活用され、事故多発地点情報、工事予定情報、分合流部の安全運転支援情報が携帯カーナビや Web サイトに実験提供される予定です。また、路車／車車協調システムによる安全運転支援として欧州が ITS 協調システムを開発しているのは周知のことですが、国内においても名古屋大学・同志社大学を中心する産学官 Cloudia コンソーシアムが、ITS 協調システムのローカルダイナミックマップ (LDM) の動的情報 (タイプ 4) を取得する技術の開発とこれを標準化するプロジェクトに取り組んでいます。

第 2 回のセミナーでは、「安全安心で快適な走行を支援する情報提供」をテーマに、二つの国内プロジェクトからプロジェクトの概要や先端的な技術、活動状況、今後の展望を紹介いただきます。それと共に ITS 協調システムに係る地図情報の標準化に関して、昨年秋から活発になってきた ISO/TC204 国際標準化活動を速報的にお伝えする予定です。

■日時 平成 25 年 3 月 14 日(木)13:30~17:00 (受付開始 13:00)

■場所 日本デジタル道路地図協会 6 階 大会議室

■講演(予定)

13:30~13:35 開催挨拶

----- 「プロジェクト Z NAVI de HANSHIN」より

13:35~14:05 「高速道路における走行支援サービスの向上をめざして」

—官民連携による道路情報配信実験の概要—

(講師) 阪神高速道路株式会社(株) 保全交通部システム技術課 課長代理 有馬 伸広 氏

14:05~14:25 「区間 ID の地図データへの関連付け」

(講師) (株) ゼンリン 制作本部制作統括室 担当部長 伊藤 千志 氏

14:25~14:45 「実証実験におけるサービス提供側からみた区間 ID 方式の課題と展望」

(講師) (株) ナビタイムジャパン エンジン開発部 糸賀 一也 氏

14:45~14:55 質疑応答

— 休憩 —

「ISO/TC204/WG3 の活動」より

15:05～15:30 「協調システムに関わる地図情報標準化の動き（短信）」

—Local Dynamic Map と MAP メッセージセット—

（講師）ISO/TC204/WG3 国際コンビーナ 柴田 潤 氏

15:30～15:35 質疑応答

「Cloudia コンソーシアム」より

15:35～16:45 「ストリーム LDM」

—ストリーム処理による LDM の高速化と

アプリケーション開発プラットフォームの構築—

（講師）同志社大学 モビリティ研究センター長 佐藤 健哉 氏

16:45～16:55 質疑応答

16:55～17:00 閉会

■定員 80名

■概要（予定）

「高速道路における走行支援サービスの向上をめざして」—官民連携による道路情報配信実験の概要—

高速道路の走行支援サービスの一環として、多様な道路情報をタイムリーに道路ユーザに提供するため、官民が連携して道路の区間 ID 方式を用いた道路情報配信実験を行っている。ここでは、高速道路会社による道路情報の保有・提供状況、実験に至るまでの経緯及び実験の概要について解説する。

「区間 ID の地図データへの関連付け」

「NAVI de HANSHIN !」における実証実験に際し、ゼンリンの地図を利用するサービス（ナビタイムジャパン殿、ゼンリンデータコム殿実施）に向けて当社地図と区間 ID の対応付け、情報提供した。今回、当データ整備における整備手法概略、現状の課題、今後の改善などについて報告する。

「実証実験におけるサービス提供側からみた区間 ID 方式の課題と展望」

実証実験「Project Z NAVI de HANSHIN !」におけるナビタイムジャパンの役割と今年度提供するサービスの概要と仕組みについて解説する。また、サービス提供側として体験した道路の区間 ID 方式の課題の報告と今後の普及に向けた展望について述べる。

「協調システムに関わる地図情報標準化の動き（短信）」—Local Dynamic Map と MAP メッセージセット—

2009 年 10 月 EC が指令 M/453 を発行し、CEN/ETSI に協調システムの標準化を命令して以降、欧州中心に活動が活発化している。これに呼応し ISO TC204 では協調システム標準化に関して WG18 を新設する等 CEN に協力してきている。WG3 は地図情報標準化において WG18、CEN、ETSI に協力しているが、ここでは Local Dynamic Map のグローバルコンセプトの標準化と、路上機から車載機への地図情報の送信メッセージに関する標準化の最新の動きを紹介する。

## 「ストリームLDM」

### —ストリーム処理によるLDMの高速化とアプリケーション開発プラットフォームの構築—

協調 ITS の主要技術として階層型地図データ表現 LDM (Local Dynamic Map) が欧州を中心に検討されている。データベースを利用して走行車両の移動情報を管理するのが一般的であるが、車両台数の増加に伴い性能が低下する。ストリーム処理を利用することで高速化を実現するのがストリームLDMである。ストリーム処理を利用することで、持込み端末やクラウドを併用したアプリケーション開発も容易となる。

■参加費 無料（事前申込み必要）

■ 会場案内 東京都千代田区平河町 1-3-13 ヒューリック 平河町ビル 6F  
DRM 会議室（地図は下記 URL をご参照ください。）  
<http://www.drm.jp/company/address.html>

### ■ 参加申方法

参加をご希望の方は、**2月28日(木)までに**、①参加者氏名、②会社名、所属、役職、③電話番号、④電子メールアドレスを記載し、下記メールアドレスへ参加申し込みメールをお送りください。  
(参加者が複数の場合は、参加者全員の氏名等上記①～④の記載をお願いいたします。)

**\* 定員に成り次第、締め切らせていただきます。**

担当 [suganuma@drm.or.jp](mailto:suganuma@drm.or.jp) DRM 菅沼 宛

### ○ お問い合わせ

〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-3-13  
(ヒューリック平河町ビル)  
一般財団法人 日本デジタル道路地図協会 (担当 菅沼)  
TEL 03-3222-7990  
e-mail [suganuma@drm.or.jp](mailto:suganuma@drm.or.jp)  
<http://www.drm.jp>